

西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.60 2010年8月号

以前の「毎日楽しく」で、人はなぜ働くのか、ということについて書いたことがあります。私自身は、人が働く理由は誰かのお役にたつため、そのおまけとして、生活していくために必要なお金と人間性が磨かれるという報酬もついてくると思っています。

これについて、これまた以前の「毎日楽しく」で書いたことのある北川八郎さんという方のCDを聞いていたところ、やはり同じようなことをおっしゃっていました。北川さんは、人が働く理由は生活していくためでも、まして、贅沢をするためでもなく、人格を高めるためだと言っています。人間性を磨くことが、働く最大の理由だというわけです。人間は他人とのかかわりをもたずに生活することが通常できないですから、生きていく上では、どうしても自分と「合わない」人とお付き合いしなければならない場面があります。学生のころであれば、友達にならなければそれほどかかわりを持たずに済むかもしれませんが、仕事をするということになるとそうはいきません。仕事をしていると、自分が快く思わない人、あるいは、自分のことを快く思っていないであろう人とお付き合いをしなければならないことがあります。そんなとき、北川さんは、「その人に幸あれ、福あれ、光あれ」と思いなさいと言います。まちがっても、その人にバチが当たるようなことを願ってはいけないとも言います。

北川さんによると、人間関係におけるトラブル（考えてみると、人が生きていく上でのトラブルは、結局のところ、これに集約されるような気もします）の原因は、他人に対する思いやりの欠如が原因となっているケースが多いようです。思いやりが欠如すると、自分の正当性のみを主張し、相手にも正しいところがあるかもしれない、ということを見ようとしなくなるそうです。これが、お互いに「合わない」人同士だといっそう顕著になるようです。そこで、そういう人に対してこそ、「その人が幸せになりますように」と願うのだそうです。そして、そうした思いを日々持つことによって、人格が高まっていくのだそうです。

そういえば、稲盛和夫さんも、人生の目的は心を磨くこと、と言っていました。そして、それは仕事を通してこそ達成できるとも言っています。

